

# 水鳥の観察

## ① ライブカメラで水鳥の様子を観察する



※寄港地活動として、ウォークラリー時に双眼鏡を持参し水鳥の観察をチェックポイントで行うことも可能

## ② 水鳥について話を聞く



※水鳥の学習スライドやデジタル図鑑の専門家からの話を活用する

## ③ 3 F甲板で水鳥を観察する



## ④ 結果から分かったこと考えたことを交流する



- 問題** 琵琶湖にはどのような水鳥がいるのか。  
また、水鳥のしぐさはどのような意味があるのか。
- 予想** カモ類など多くの水鳥が生息している。水中にもぐって水草や貝を食べている。
- 結果** 水草を主に採食するマガモ属（ヒドリガモ・ヨシガモ）  
貝や水草の越冬芽を採食するハジロ属（キンクロハジロ）  
潜水して水草などを採食するクイナ科（オオバン）  
などが見られる。
- 考察** 冬期はシベリアなど北国から渡ってきたカモ類など10万羽以上の水鳥がみられる。びわ湖は水鳥がエサを食べたり、休憩したりする水鳥にとって重要な生息地になっている。
- まとめ** びわ湖周辺には様々な環境があり多様な水鳥が生息している。特に冬期には水鳥の種数や個体数が多い。
- つながり** 食物連鎖・ラムサール条約・ヨシ群落・水草・貝

- ・琵琶湖の湖岸は、冬期はカモ類を始めとする10万羽以上の水鳥の採食、休息場所となる。
- ・この20年間で増加が見られた種は、マガモ属で水草を採食するヒドリガモ、オカヨシガモ、ヨシガモ。ハジロ属で湖底の貝類や水草の越冬芽を採食するキンクロハジロ、ホシハジロ。クイナ科で潜水して水草などを採食するオオバンである。
- ・水草の優占種の変化や魚類群集の変化が水鳥の個体数の増減に関係している。
- ・マガモやコガモは、昼間は湖岸で休息し、夜間に農耕地で採食する。
- ・梟鳥、カイツブリは潜水して小型魚類を採食する。
- ・ヨシ群落には水鳥やオオヨシキリ、コヨシキリなどが繁殖している。
- ・琵琶湖はラムサール条約で国際的に重要な湿地であると判定されている。（琵琶湖ハンドブック三訂版）

絶滅危惧種	サンカノゴイ ヨシゴイ イヌワシ クマタカ オオコノハズク コノハズク コミズク ヤマセミ ブッポウソウ
絶滅危機増大種	ヒシクイ マガン クイナ オオワシ など
希少種	コハクチョウ オオハクチョウ オシドリ ヨシガモ カイツブリ ハヤブサ など

# 水鳥の観察 準備から後片付け

## ① 寄港地の湖岸



班2台の双眼鏡でウォークラリー前後に半分ずつの班に観察させるとよい

## ③ 水鳥の観察のポイント解説



F S # 5 パソコンにてデジタル図鑑の動画や学習pptを学習室モニターに投影する

## ④ 3階甲板で水鳥の観察



1人1台の双眼鏡と数台のフィールドスコープで観察する

## ② ライブカメラ操作

びわ湖学習時にF S # 5パソコンで操作

## ⑤ 学習室で記録とまとめ

各班1台のタブレットPCでデジタル図鑑で観察した水鳥について調べる。ヨシペンで観察した水鳥の絵をかくことも可能

## 準備物

- ・ 双眼鏡×人数分・フィールドスコープ×4
- ・ タブレットPC（デジタル図鑑用）×班の数
- ・ パソコン（管理室#5）・テーブルクロス